

ひがの義幸 の県議会活動

代表質問

福田知事の県政の足跡 今後はどう生かすのか

令和5年度栃木県議会12月通常会議の12月4日、日向野義幸県議（とちぎ自民党議員会）が代表質問に立ち執行部の考えを質しました。質問概要は次のとおりです。



日向野義幸議員

知事の県政運営を振り返ると、足利銀行の一時国有化問題の対応、本県を襲った数々の

持ったリーダーの登場を望んでいます。

私は、県は中間的自治体と考えています。国が法律や制度を作り、市町村がそれに基づいて行政サービスを実施する。

現場では、法律や制度にそぐわない事例が多々あることから、その「乖離」を調整して、現場の実態にあった制度設計をすることが県の役割だと思います。その為、我々県議会議員は現場の声を把握し、問題点があれば速やかに国に意見を述べ、実態にあった制度設計を市町村に示していくこととなります。また、地域によってサービスの質や量が違い、地域間格差が生じている状況も、県が関与して公平で安定したサービス提供ができるよう、マンパワーの確保や財政支援を行うことも役割と考えます。

県が、国と市町村を繋ぐ橋渡しの役割を担っているからこそ、我々県議会議員は、身近な存在として支援をしていただけよう、県民の皆様に取り添い、しっかりと汗をかいてまいります。

さて、令和6年は甲辰きのとらの年です。甲は、物事の始まり、辰は「大きな力と成功」と捉えることができることから、甲辰は、新しいことを始めて成功するといった縁起の良い年になると考えられます。

令和6年「甲辰」の年が困難を乗り越え、力強く新芽が成長するかの如く、皆様にとって実り多い希望に満ちた年になりますようご祈念申し上げます。

栃木県議会議員 日向野義幸



代表質問に立つ日向野義幸県議

年頭挨拶

まずは、本年元旦に発生しました令和6年能登半島地震により尊い命を落とされた皆様・被災をされました皆様に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興を願います。

新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中はひとかたならぬご支援を賜りありがとうございました。お陰様で自由民主党栃木県連 政務調査会長として県政の予算編成・政策立案の中心的役割を担い充実した日々を送る事が出来ました。さて、国政での政治と金の問題では、我々政治家が旧態依然とした政治体質から決別し、信頼される政治家として活動する事ができるか、その真価を問われる転換期を迎えていると考えています。

日本の安全保障（防衛・経済・食料等）が脅かされる現状において、国内政治の安定がなければ、日本の国益も、国民の生命・財産も守る事が出来ないと危惧しています。日本には、中国・ロシア・北朝鮮の脅威と、どのように対峙していくのか、半導体等、他国に遅れをとった産業分野のサプライチェーンをどのように構築するのか、40%を切った食料自給率、国民の生命を支える農業を守るのか等の厳しい現実があります。この難局を乗り越える、揺るぎない信念と確固たる理念を

災害からの復旧・復興や、新型コロナウイルス感染症の対応など、苦難の道の日だったが、強いリーダーシップのもとに乗り越えてきました。

また、平成の大合併の先導役として難しい市町村合併を成就したほか、コロナ禍での開催となった「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」も成功に導きました。

今後も、取り組むべき課題が山積する中、これまでの足跡を十分に検証した上で、県政運営に生かしていくことが重要と考えます。そこで、5期目の任期満了まで約1年となりますが、これまでの歩みを振り返り、県政運営をどのように総括をし、評価するのか、知事に伺います。

政策集施策ほとんど実現 人口減少問題等に取組む

福田富一知事▼ 知事就任以来「対話と協調」、「県民中心」、「市町村重視」を基本に県政運営を行ってきました。

足利銀行の一時国有化などの経済危機、東日本大震災、大規模な自然災害、新型コロナウイルス感染症対策などをオール栃木体制で乗り越えました。

人づくりを県政の基本に据え、人材育成や子育て支援の充実を図り、さらに、ものづくり産業や農林業の振興、観光立県等の国際戦略等を推進して、1人当たりの県民所得が全国第4位になるなどの成果が得られています。

加えて、行財政改革、市町村合併の推進による、基礎的自治体機能の充実・強化にも取り組まれました。

政策集に掲げた施策も、ほとんどが実現、とちぎ未来創造プランの成果指標も、おおむね順調と分析しています。

一方、人口減少・少子化問題や脱炭素化、デジタル化への対応など、重要な課題についても全力で取り組めます。

未来 ネットワーク 通信

ひがの義幸
県政だより

2024年新春号

とちぎを守る。命を守る。

本県発展に求められる職員像は



日向野義幸議員

本県の未来を担う職員の育成は、栃木県の将来を左右する大事です。

県では、「挑戦する職員」、「信頼される職員」、「協働する職員」を掲げて人材育成に取り組んでいるが、その評価を北村副知事に伺います。

一方で、自身の頭で考え、自身の言葉で発信できる職員を「目指すべき職員像」と明示して取組みを進めていくべきと考えますが、本県の発展に向けた職員育成について併せて伺います。

新たな課題に挑戦する職員育成

北村一朗副知事▼ 栃木県人材育成基本方針を策定し、職員の意欲や能力の向上と組織の活性化を図ってきました。

災害時をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策、とちぎ国体運営等、経験したことのない課題に対応できたこと、とちぎ未来創造プラン等の施策を着実に推進できたことから、職員の育成は一定の成果を上げているものと考えます。

変化する社会情勢に対応するには、挑戦する職員が求められ、柔軟な発想や、主体的に施策の立案をできる企画力を持ち、新たな課題に積極的に挑戦する職員の育成が必要であります。

職員研修、人事評価制度の活用、良好な職場環境づくりに努めまして職員育成に取り組まします。

県政運営20年の為政者として 県の未来都市像をどう描くの



日向野義幸議員

政治家は、子どもたちの未来を創ることが最も大切なことと考えます。

とちぎ自民党議員会は、知事と共に歩んだ県政の共同責任者として、本県の未来を創ってい

かなくてはならず、20年にわたり強いリーダーシップを発揮して、苦難を乗り越えられた知事が思い描く未来都市像は、本県の50年、100年後に向けた県政運営の「道しるべ」になるものと考えます。そこで、県政運営20年の為政者として本県の未来都市像をどのように描いているのか伺います。

将来像は人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気なとちぎ

福田富一知事▼ 県民が未来に夢や希望を抱き、安心して暮らすことのできる栃木をつくり、次の世代に引き継いでいくことが知事の使命であり「進むべき道筋」を県民と共有していくことと考えます。

本県の将来像として、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気なとちぎ」を掲げ、5つの重点戦略のもと、18のプロジェクトを展開しています。

知事就任以来、未来志向のとちぎづくりの思いは揺らぐことなく、人が輝き、活躍する社会を目指してきました。

栃木には、誇れる地域資源、力強い産業、そして、何よりも郷土を愛する多くの県民がいます。

今後とも、将来像の実現に向けて、全身全霊で取り組みます。

天利副知事に映る栃木県の姿と 県政発展に向けた自身の役割は



日向野義幸議員

我々は、この地で長く暮らしていることから、栃木県の良さや、必要な事柄を客観的に見えないことが、県政発展の妨げになっていると危惧しています。

多くのことを経験し、広い世界で活躍してきた天利副知事には、大海を知る立場から、栃木県に「足りないもの」や「必要なものは何か」を職員や県民に示して、県政に新しい風を吹き込んでくれることを期待しています。

本県がどのような問題点や可能性を持っていると思われているのか伺います。

また、県政発展に向け、自身の役割をどのように捉えているのか、併せて伺います。

バランスの取れた豊かな県の 魅力・実力を国内外に発信

天利和紀副知事▼ 副知事就任以来、多くの方から本県の強みや課題等を伺い、様々な分野でバランスの取れた、魅力的な県であると実感しました。

発信力では、一定の課題を感じておりまして、本県の魅力・実力を国内外に向けて効果的に発信し、地域の持つポテンシャルを知ってもらえることができれば、さらなる飛躍が期待できると考えています。

知事からは、インバウンドや県内企業の競争力の強化、カーボンニュートラル実現の加速などの指示を受けており、発信力の強化も踏まえながら、各種施策を推進します。

加えて、他県や海外での赴任経験等を生かして、成果に結びつけていくことが、私の役目と考えています。

令和6年度当初予算編成と 国の経済対策への対応は



日向野義幸議員

令和6年度当初予算編成方針では約94億円の財源不足が見込まれており、本県財政は厳しい状況にあります。

こうした状況にあっても、とちぎ少子化対策緊急プロジェクトの推進など、取り組むべき課題は山積しており、県民からは積極的な施策の展開が求められています。知事にとっては、任期5期目最後の予算編成となることから、知事の描く未来都市像等を踏まえ100年後を見据えた、強い思いを持って編成に当たっていただきたい。

どのような考えに基づき、当初予算の編成をするのか伺います。また、国の総合経済対策では、物価高騰対策や国土強靱化、防災・減災対策等を進めるとしているが、どのように対応するのか併せて伺います。

少子化・女性活躍・物価高騰 地域経済活性化対策を推進

福田富一知事▼ とちぎ未来創造プランに掲げる将来像の実現に向け、持続可能な社会づくりを進めることが重要と考えます。令和6年度は、少子化対策として、結婚、妊娠、出産、子育ての各ライフステージに応じた支援の充実・強化に取り組むほか、女性活躍の推進や、地域経済の活性化、さらには、DX、カーボンニュートラルの実現に向けた施策を推進します。

予算編成に当たっては、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドを推進するとともに、自主財源の充実に努めるなど、財源確保に取り組まします。

物価高騰対策については、国の総合経済対策に呼応した施策推進により、県民生活及び県内経済への影響を最小限にとどめます。



福田富一知事の答弁と議場風景

半導体と蓄電池を本県の戦略産業に位置付けては



日向野義幸議員

本県は、製造業の業績を全国上位に押し上げており、ものづくり産業の発展への取組を欠かすことができません。

県は、自動車産業、航空宇宙産業、医療福祉機器産業を本県ものづくり戦略3産業と位置付け、重点的に支援を行っているが、新たに半導体産業や蓄電池産業を戦略産業に位置付けてはどうかと考えています。

半導体と蓄電池は経済安全保障推進法に基づく「特定重要物資」に指定され、本県が取組を進める好機であり、首都圏や研究機関があるつくば市にも近いなど誘致に有利な条件も備えています。

本県の戦略産業に半導体産業と蓄電池産業の位置付けについて知事の考えを伺います。

新たな成長産業の企業誘致と県内産業の振興に全力で取組む

福田富一知事▼ 本県経済の持続的発展のためには、優れた技術を有する企業の強みを生かすとともに、成長が見込まれる新たな産業の振興を図ることが重要です。

特に、半導体や蓄電池は、今後の市場拡大が期待され、経済安全保障上も極めて重要な産業であることから、両産業も含めた、県内企業の技術開発支援や企業誘致等を行います。

半導体関連企業のキヤノン株式会社及び株式会社レゾナックによる本県内への投資計画は、地域経済の活性化につながるものと期待しています。

今後も、国や産業界とも十分に連携を図り、半導体や蓄電池産業等、本県の新たな成長産業の振興に全力で取り組めます。



県政を質す日向野県議

総合防災拠点の全体像と地域活動拠点との連携は



日向野義幸議員

県の総合防災拠点は栃木県地域防災計画で、その役割が示されています。

広大な県土を1か所の総合防災拠点で守れるのか、疑問を抱いている県民も多いのではないかと考えます。

また、県内全体が被災する大災害が起きたときに、道の駅や都市公園といった広域災害対策活動拠点でカバーできるのかも不安があります。

総合防災拠点の全体像を、地域の活動拠点との連携も含め、県民に明示する必要があると考えます。

広域災害対策活動拠点の機能強化と、総合防災拠点との連携体制の強化への取り組みについて伺います。

学習機能を備えた総合防災拠点 地域防災拠点との連携も整理済

福田富一知事▼ 大規模災害発生時には、国や他の都道府県からの人的・物的支援を迅速に受け入れ、円滑に被災地支援につなげることが重要です。

災害時の被災地支援と平時の学習、教育の機能を兼ね備えた総合防災拠点として県総合運動公園を指定するとともに、各地域に配置した防災拠点との連携体制や役割分担についても整理を行ったところです。

救援物資の輸送や応援部隊の被災地への展開など、総合防災拠点を中心とした支援体制について県民の理解が得られよう広く周知を図ります。

また、各防災拠点が効果的に機能するように、建物の耐震化や非常用電源の設置、防災行政無線の整備等を進め、防災関係機関との図上訓練や、市町職員対象の救援物資輸送の研修も行ってきました。

今後も災害に強い栃木の実現に取り組めます。

本県教育のあるべき姿は



日向野義幸議員

教育長には、明確なビジョンを持って、子どもたちの学ぶ環境を作っていく責務があると考えます。

本県は、目まぐるしく変わる関係法令や制度に振り回され、不変のよりどころまでが変わってしまっているように思えます。

「本県教育のあるべき姿」をどのように考えて、教育行政の推進を図っていくかとしていられるのか、教育長に伺います。

知力・徳力・体力の育成と社会人としての行動力養成

阿久澤真理教育長▼ 教育は、知、徳、体、バランスの取れた力の育成を図るとともに、社会の形成者として主体的に行動できる力を育むことが重要であります。

このため、生涯にわたる学びの基礎となる学力の醸成や、道徳教育などを通じた豊かな人間性の涵養、健やかな体の育成などを、教育の基本的施策と位置づけています。

さらに、子供たちを学校や地域における体験を通して、未来社会の作り手として育成することにも取り組んでおります。

人こそが社会の原動力であるという信念のもと、子供たちが自らの未来を自らの力で切り開くことができるよう、教育の向上に努めてまいります。

頼れる警察づくりにどう取組む



日向野義幸議員

警察庁が行った「体感治安」に関する調査では、「ここ10年で日本の治安は悪化した」と回答した人は67・1%に上り警察力の強化が求められています。

私は、地域の交番や駐在所を統廃合している現状が、体制の弱体化につながることを危惧しており、交番等の体制整備が必要と考えます。

また、警察力の強化には、人材の確保、研修機会の提供や十分な資機材の確保、そして、科学捜査研究所などの設備の充実にも取り組む必要があると考えます。

新たな局面を迎えた「警察のあるべき姿」をどのように考えるのか、また「頼れる警察づくり」にどのように取り組むのか警察本部長に伺います。

基本姿勢は「誠実・仁愛・強靭」 目標は安全・安心な栃木の実現

難波健太警察本部長▼ 県警察業務運営の基本姿勢は、誠実、仁愛、強靭とし、その目標を「安全で安心な」とちぎ」の実現」と定めています。

近年、国の内外では、人口減少、少子高齢化、情報通信技術の発展とサイバー空間の拡大、経済安全保障等の諸要素が、治安に多大な影響を与え、治安課題は複雑化しています。

県警察では、警察組織の最適化を図り、必要な装備資機材の充実や、サイバー犯罪対策の強化に努めています。

交番、駐在所の再編では、地域の警察力を維持するため、必要な人員の確保や、本部執行隊の活用などに取り組んでいます。

町進記

昇り龍の勢いで お役立ち電車実現

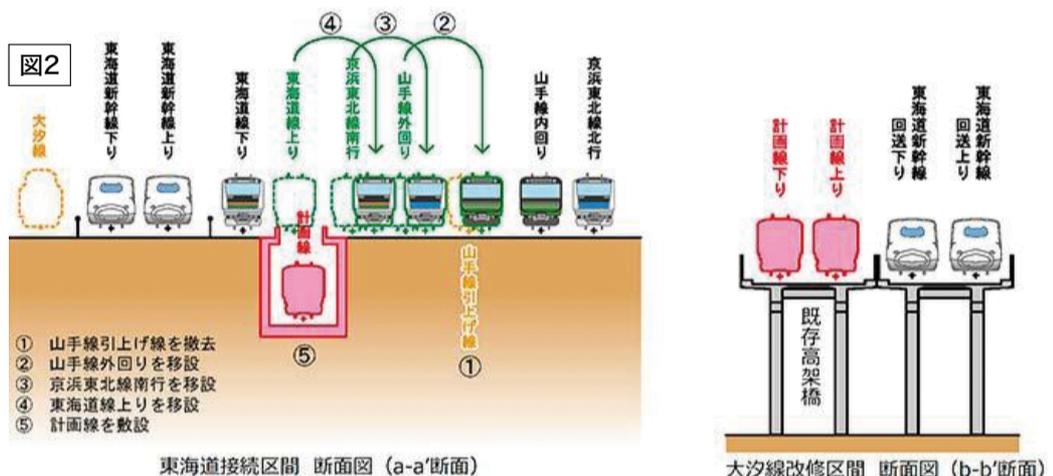
謹んで新春のお慶びを申し上げます。
さて、羽田空港アクセス線東山手ルート、令和五年（二〇二三）着工しました。二〇三一年完成予定です。栃木からの直通電車をいい時間帯に設定してもらえよう、一刻も早く、運動をはじめなければなりません。急ぐ理由を申し上げます。

図1は「東山手ルート」の工事概要図です。田町〜浜松町間で東海道線から分岐。上下線の間際に設けられた単線で地下にもぐり、新幹線をくぐり（図2左）、海側で大汐線の高架に接続。大汐線高架からは複線（図2右）、東京貨物ターミナル付近は地上、それから地下にもぐって羽田空港第二ターミナル付近に到達する計画です。問題は図2左、新幹線をくぐるところです。単線しか取れないため、道路で言えば「片側交互通行」状態です。このため運転本数は1時間に8本、「上り下り4本づつ」

しか運転できないという物理的な制約があるのです。東山手ルートには、JR宇都宮線だけでなく、高崎線、常磐線からもアクセス可能なため、いい時間帯の電車を走らせてもらうには、他線沿線より早く、JR東日本に申し入れる必要がある、と思うのです。
令和五年十一月十日、栃木商工会議所会頭副会頭会議にお邪魔し、こうした事情を踏まえ、早期に「羽田空港直通お役立ち電車」運行に向けてのご協力をお願いしたところ、ご快諾いただきました。
沿線住民の声、「走れば乗るよ」という意思表示、重要です。

この電車は単に沿線住民の利便向上だけではなく、地域を育てる「インフラ」です。生活や産業の基盤です。この電車に乗ってビジネスが、「人」が、やってきます。令和六年は甲辰。「春の日差しがあまねく成長を助ける」芽吹き之年、活気に溢れ力がみなぎる年」とか。昇り龍の勢いでこの「お役立ち電車」実現に向け、地域の力を集めたいと存じます。皆様どうぞよろしくお願ひ申し上げます。（申丸）

■「東山手ルート」および「アクセス新線」の工事概要



巴波川の洪水被害を軽減 地下河川整備工事が着工



地下河川整備工事（流出部施設）風景（沼和田町地先）

日向野義幸県議会議員は「とちぎを守る・命を守る」をモットーに栃木市の治水対策に全力で取り組んでいます。
平成27年の関東・東北豪雨（栃木雨量観測所総雨量・446mm）、令和元年東日本台風（総雨量・305mm）では、栃木市中心部に甚大な被害がありました。
日向野県議は、災害現場を訪れ状況を把握し県との連絡調整に当たり、災害復旧工事への道筋をつけました。
永野川については、国の「災害復旧助成事業」により、河道掘削、護岸、堤防嵩上げ、橋梁架け替え等が集中的に実施されましたが、市中心部の巴波川については、国の「河川激甚災害対策特別緊急事業」として地下トンネルによる「捷水路」を整備することになり昨年9月に着工しました。
工事概要は次のとおりです。

- 地下河川整備工事
- 工期 令和8年3月24日まで
- 工事箇所 栃木市沼和田町〜大町地内
- 施工者 奥村・岩田地崎特定建設工事共同企業体
- 工事請負額 94億7,100万円
- 函渠工事（改修関連・用水路整備）
- 工期 令和6年4月11日まで
- 工事箇所 栃木市沼和田町
- 施工者 有限会社 山野井組
- 請負額 7,568万円

（文・古澤悦夫）

沼和田町に信号機

栃木南小学校に通学する沼和田西部地区の学童が安全に横断歩道を渡れるようになって良かった。（地域の声）



県道153号南小林栃木線 沼和田町に信号機

編集・発行 ひがの義幸後援会総連合会
発行日 令和6年（2024）2月8日
編集発行責任者 高田 良久
事務局 〒328-0075 栃木県栃木市箱森町7-9
TEL 0282-23-8855 FAX 0282-23-8856
E-mail info@higano.jp
■ひがの義幸 ホームページ・ツイッター アドレス
H P www.higano.jp
Twitter https://mobile.twitter.com/yoshiyuki/higano